國貞
文政七年より十年まで
前
十
西宮板
三弁
へ13
2378
345

遠特
2378
345

市川團十郎伝　前編

勝善庫
月花板摺
原稿と家名
原の見返し揮

歌川国貞筆

金龍山人
板元
春松軒

[illegible]

雅妻の初役恵方不波名古屋去年の冰月の狂言不似あらぬ筆は
あやつり人形当年も又ろくろくとおつり三升の夏さぶ[illegible]
きの江戸岩小深てこて水道のふろふぬまたてだめ孫ぐ[illegible]
えてでなく未内の[illegible]豆小挑けなく顔面い恐ふ人碎と通矢し呪てこれぞと
[illegible]金山儒仏神の物[illegible]仕好いいりも古寺の[illegible]ふつまてかつくれの二
世ちくひ[illegible]年の夏帯[illegible]紙ぢかそうつよくろ山五庫ゥ未[illegible]
[illegible]もさま仲の所小仏隊の草履ちちろ[illegible]
のさあて高仕[illegible]大門口小[illegible]
興[illegible]の[illegible]表三谷田町八月の下[illegible]女[illegible]
今戸橋の[illegible]三八[illegible]
[illegible]の接[illegible]
牧の[illegible]の浅[illegible]悪の邪[illegible]
[illegible]子様方へ[illegible]後合[illegible]

文政七甲申初春　木陽の庵りに稿る　七代目市川三升述

先祖の光り
親の関ものれが
業
おのれ
徳ふ
あらば

市川ゑび

奉造立額堂一宇於成田
山不動尊霊場
文政五壬午十二月九日上棟
七世 市川三升

五柳亭 徳升 校合

高本五之助 盛勝

不破伴作 繁時

敬白

奉納
世話人
五渡亭 國貞 画工

願主
遊女 吾妻屋内 吾妻

酒屋 茶人

細雁園 桃石 成田屋

大願成就

江戸橋　西宮新六

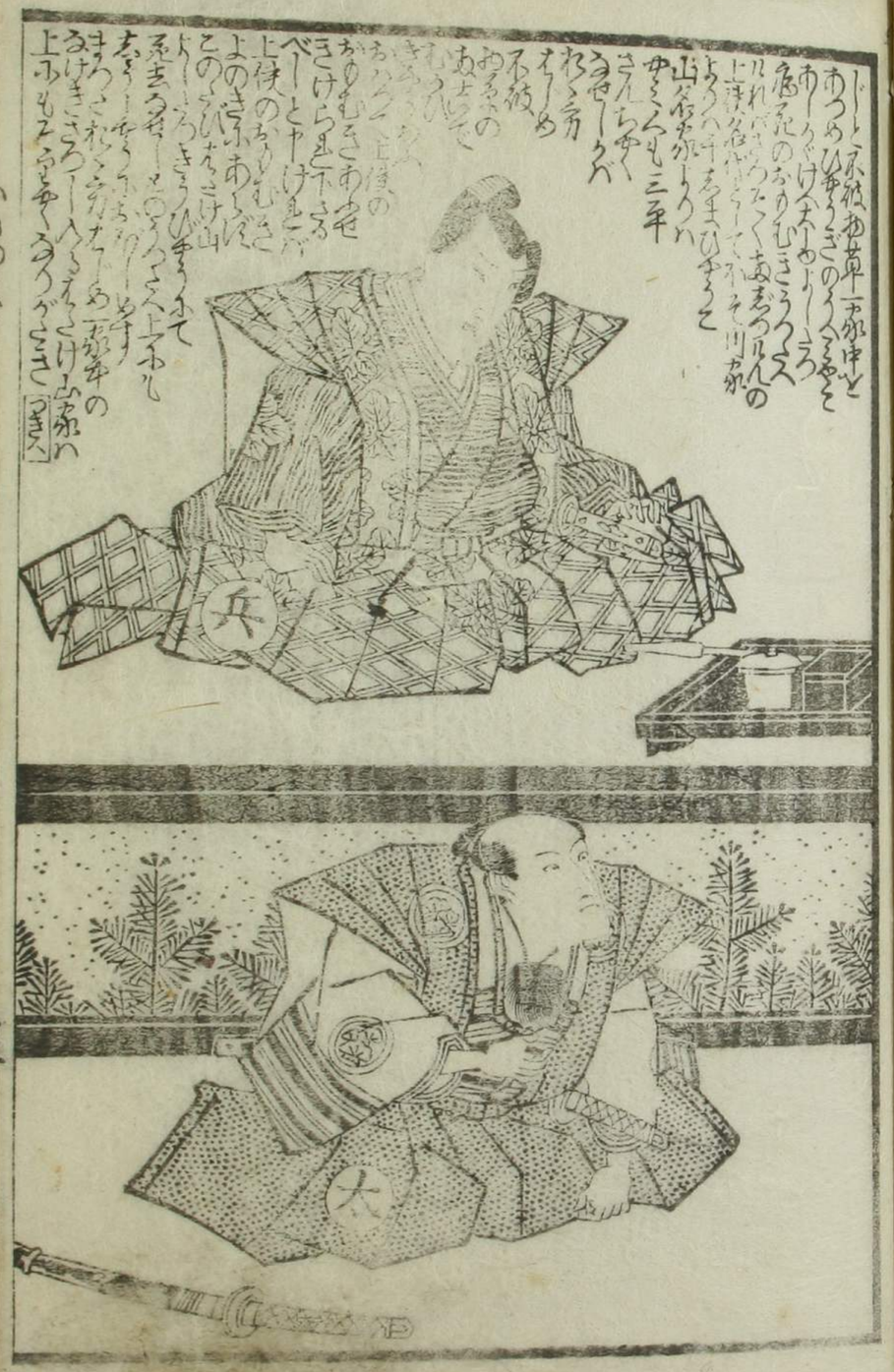
山

俳

山
岩

山
丑

伴



表紙
国貞画

国貞画
市川三升作

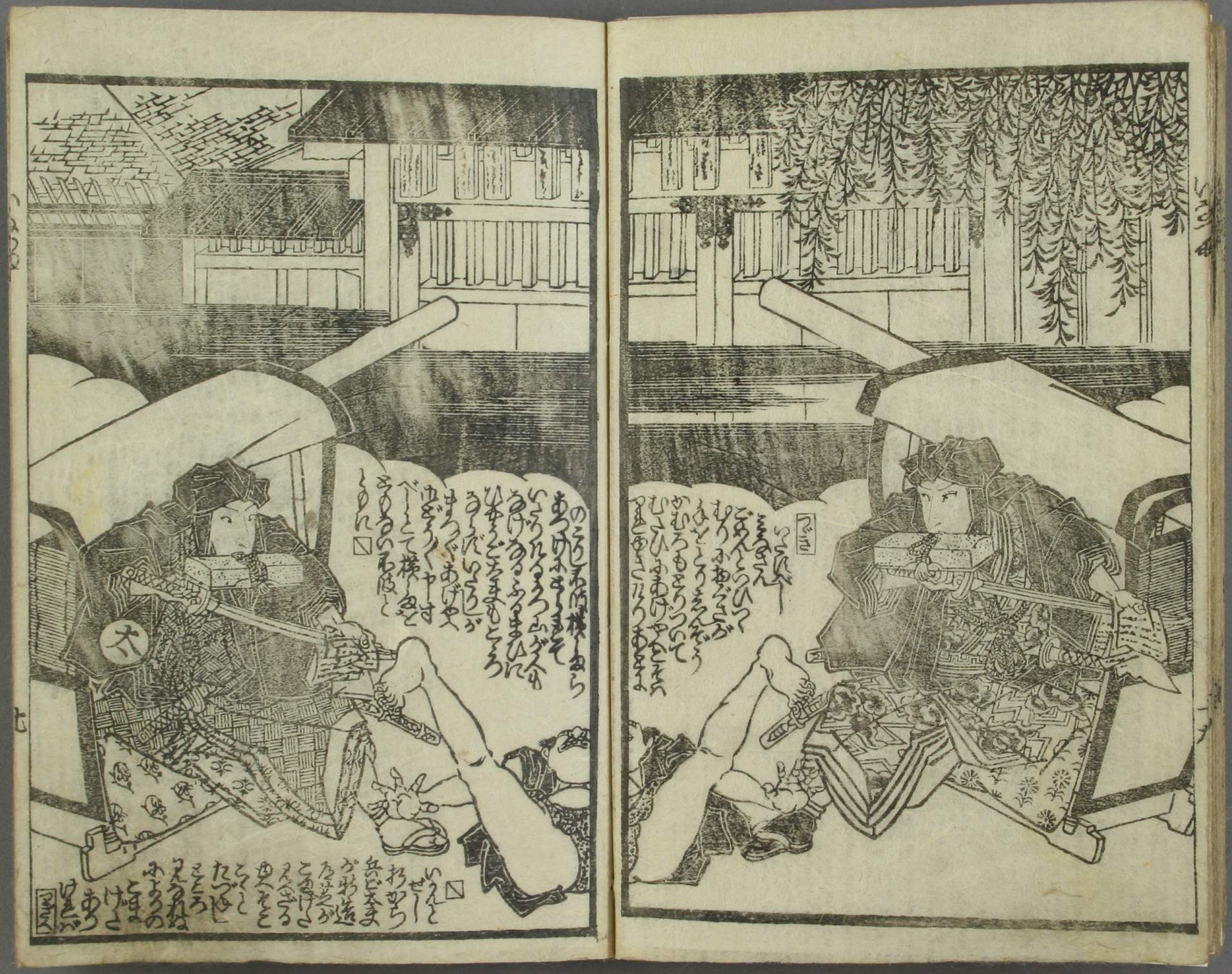
當南枝梅妻表紙

下乃巻

市川三升作　春宗軒

五渡亭國貞画　西宮板

文政七年甲申春新鐫


つづき
六

つづき　ワかいのふむうひ山ナこえ
たまこのろうこまろ
ちんぞうろくろのこまちぶひ
ゆうこちりひうこ
ゆうこするこ
ゆうこうこ
そのこのもこ
くろべーこ
ワだこひ
ふくこ一ん
つまごちて
さていろう
くてあげ
むろまれ

●ろう山ゞゆさけゆろうち
ぢうくこすぐこ
あつくまいこのぐろんこ
わろろろ山ゞぐーこち

こちまれ
人のこと
ゆれば
藻ぶく
ヒヒ
ヒヒ
あ
ヒヒ
引
ちゃ
れば
ゆさ
ゆろこと
ゆこの
ゆこの
ゆれば

二十ゆ
ろう山い
紅月と名づけ
ゆさこうけせけ
ゆこてろのやま
たぎろうれよの
うき川水のるれの
さよれやひい水のるの
ぬまさえるかさえ
えりのわぬころのゆそ
さぞもれろうあごかん
ゆーゆこのわすき水の
ぐろ水ゆまでころと
ゆこふさきゆこのゆこ
さこれもゆろくぐろとゆむゆべ
ろくきこえぐろまろうぐころまゆこ
いひつなそーふくゆげんとさこゆせべ

それハちろころかこけ
ゆこうこ
ゆこうこ
ゆすべーゆ
ゆこれつさ
ゆれば

か

兵

つゞき　えやまのくめのあけがらとろれてこそいろろ

それいさてをさるのふ　ちよなぐれてゝす
仲のてまんみのふぐさこそやひいひときい
めぐろまろやのろ山ぶろ手　ふれぞすぐさ
さろるこちも七りんのやあぎのすぐさ

いろろんくてひゃうごやの　ゆうごを夫が
どうちゝうときさんの
けんぶつふをろ　てぞ
いろうりるわろ
ろろ山ふむろひせんゝい
これの客人ふて
とこのごいあめよ
ろくらぶどうち
すきちきまり
さがちまふ
ちゝろとさく
さいふが
ごさんとと
いひつ
ふれがろふも
ひゃうごさん
ろんのゆで
ござんとと
茶やのえんふ

ふゝのろゆでむござろあせぬ
このふとまんぞうがゆちゝ
ろあげとろやくちく
ろろ山ぶまろふろを
山げさんあがんぐご
ざんとろとさ
つげ色がろ山ふ
ろふごろろく

やまぶろがちんぞう
ろゝろのがえきし
ろあげとろれ
ちごろきさてい
せんぐろて仲の才
みてえきちぐとと
ろろろふあゆひ
ひゃうごふむぶ

▲スムろいちゝりめ
ゆでとろでござん
せうとさもやてつふ西
ロうれいろ山
ろろんは

たきものを
うちゝたいちん
ぞうろのが
ぶちゃうゆうまよ
ちまいろ巳ふ
あろるその西ヒ
あんまうでござん
もと

▲人のりのとろぶりのとさてんせうが
さ色あつてとぶむりのとござんす
まいが氏ひゃ
まきあ月でろ
つけ色てトふ
ろいさごめて邪のかゝさん方のお岩▲

室

体

三

大
山

亀戸庵
門國十郎作
五渡亭國貞画